

大切にしたい視点

多くの人と人、人と暮らしがつながっていくよう、**実行委員会の取組に**
多様な主体が一緒に関わり、つくりあげていくきっかけとしてのかわさきフェアを実現

事業計画	検討時期			幹事会 主な論点など
	第3回 (5/29)	第4回 (8/上旬)【案】	第5回 (秋以降)【案】	
協働推進		●	●	フェアを一緒につくる協働の「メニュー」（市民の巻き込み方）の設定 <ul style="list-style-type: none"> 参加する段階や参加時間、秋・中断期・春等の状況に応じた参加メニューの設定 参加することの誇りや仲間意識の醸成につながる愛称の設定 既存ボランティアとの連携 ⇒ 会場計画を踏まえて、具体的なフィールドにおける実施に向けた協議調整 <ul style="list-style-type: none"> 企業・団体等の巻き込みによる具体的な取組
会場計画	●			解像度を上げた会場のデザイン <ul style="list-style-type: none"> 各コア会場での出展展示、各種コンテンツ等の設定 市民総参加に実現に向けた協賛連携会場の考え方・名称 コア会場の入場者数の設定
出展展示	●			各展示内容のテーマ設定 <ul style="list-style-type: none"> かわさきフェアのメインとなるテーマガーデンのデザイン手法 （全体をトータルプロデュースできるコンサルタントをプロポーザルにて決定し、修景デザインについては、市民総参加型フェアに共感していただける市内ゆかりのデザイナーを選定） 出展コンテンツは、都市の生活において、身近にみどりを取り入れることを提案するため、ベランダや狭い庭などの限られた空間で、みどりに囲まれて、のんびり過ごしたり、仕事をしたりする空間などのテーマを設定
植物調達 ・管理	●			植物調達管理の体制・調達方法 <ul style="list-style-type: none"> 今後設立したいと考えている植物の調達から管理までをカバーする体制の確認
広報宣伝 ・行催事	●	●		効果的な広報宣伝PRの実施 <ul style="list-style-type: none"> 「Instagram」「Twitter」「Facebook」について、6月1日スタート。様々な情報を発信し関係人口を増やしていく 開催1年前イベント（11月開催予定）を検討し、多くの人の関心に繋がるようテーマ設定 協賛金について <ul style="list-style-type: none"> 市制100周年記念事業と一体的に、協賛金募集を開始する予定（9月～）
飲食・物販 (営業参画)		●		特産物や地場食材等を活用した飲食・物販の仕掛け <ul style="list-style-type: none"> エリア内の飲食・物販店と連携し、エリア内を回遊する仕掛けづくり 使用する食材を会場内で栽培し、育てたハーブを活用したメニューの開発など、育てるところから食べるまでの過程を見せる演出、仕掛けなど
会場運営 ・交通輸送		●		公共交通機関の活用を前提とした交通輸送・会場運営 <ul style="list-style-type: none"> 既存の公共交通機関の活用を前提としつつ、休日など、多くの来客が見込まれる場合のシャトルバス輸送やマイカー対策を講じる

昨年度の議論経過

資料1 (参考)

事業計画	第1回幹事会 (9/30) 主な論点・意見等	個別ヒアリングにおける主な意見等	第2回幹事会 (2/27) 主な論点・意見等
基本的事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 開催期間の具体的な日にちの決定 ・花き調達や地域資源の見せ方等を考慮して検討するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月1週目は、入学式があるなど動きにくい時期。春の会期を何日か伸ばしてもいいのでは。 	
協働推進	<ul style="list-style-type: none"> ● (仮称)ボランティアの活用項目と募集方法 ● フェア終了後も継続できる協働推進の仕組みづくり ・大きなイベントだと大人中心になりがちだが、ぜひ、子どもたちに参加してほしい ・企業等にこちらからの働きかけが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアを通じて、ガーデナーのような人たちが育っていくといい。 ・キーパーソンを中心にコミュニティを広げていったほうがよい。 ・地域活動に積極的な方々を巻き込むためには、学校単位や商店街単位など、様々な単位で呼びかけていくことが必要。 ・ガイド、案内等目的・さまざまなメニューをつつたほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には得意分野のあるイベント会社があるので、ぜひ一緒に盛り上げていけるようになってほしい。 ・一番大事なのはプロセス。少しずつ一緒に作り上げていく仕組みがあるとよい。線に関わりがある人とならない人も参加できるように。秋に仕込むと春に出てくるストーリーとしてつながるものがあるとよい。 ・SNSでポスターでも、自分の緑化フェアという形で参加する方法があるとよい。 ・一般の市民の方達に参加していただく以外に、やはり美しいガーデンをつくったり、食のプロフェッショナルなど、多くの才能が必要。市のアーティストやガーデンデザイナーなど、川崎で活躍されているアーティストの方、これから育てていただきたい方たちをぜひ巻き込んでほしい。
会場計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要駅からコア会場間の資源の活かし方 (会場ごとの地域特性に応じて検討) ・各エリアで進行中の事業や政策の中に、どう伝えられるかを探りながら、3エリアの図に組み合わせとして示していくとよい。 ・開催期間中に各会場周辺の既存のイベント等とも積極的に連携していくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性×みどりということ、空間を通して見せていくべき。 ・緑化フェア単体ではなく、Colors, future Actinsなどと紐づけて会場に落としていくことが大事。 ・グリーンインフラについて、レインガーデンだけではなく、市民団体や企業、今までみどりと関係がなかったような様々な方がつながり、これからのインフラになっていくというように、広くスタンスを構えて考えることが重要。 ・3会場それぞれの会場の特徴をしっかりと出してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催も迫っているため、次回からはもう少し解像度の高い会場計画案などを見せていただけたほうが良い。等々力緑地と富士見公園、両方の課題としては、諸施設の間で、空間が分断されている状態が散見されるため、施設の整備だけではなく、全体の地のランドスケープを調えることが必要。 ・イベントやプログラムと会場計画を切り離さずに、どのようにして活動やプログラムを踏まえた会場計画にするかをシミュレーションするとよい。 ・単なる緑化フェアの会場計画ではなく、例えば、みどりの共創プロジェクトの舞台装置を計画設計する意識をもち、演じる方々を繋げていくような整理が必要。 ・富士見公園では、例えば、夜に何をするか。何を残したいかを意識して、そのトライアルを緑化フェアではなく、チャレンジしてほしい。 ・コア会場以外では、既存の主要な大規模イベントとの連携は必須。少なくとも当たりをつけておかないと、もう時間があまりないと思う。 ・コア会場だけが盛り上がるのではなく、例えば、私の緑化フェアのような、市民一人ひとりの自分の緑化フェアみたいなもので参加できるようになるとよい。
出展展示	<ul style="list-style-type: none"> ● 開催時期、各エリアのコンセプトに応じた展示内容 ・秋から春にかけて間が空くが、10月に仕込んだものが3月に花開くような、つながりができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作段階だけではなく、どうやって維持管理していくか、フェア後にどう残していくかを考えてやっていく必要がある。 ・秋から春の中断期間に、市民や企業に入ってもらい、その間も一緒に関わる仕組みができればいい。秋に仕込んだものが春に現れるような工夫も必要。 ・単に会場を装飾するのではなく、中断期間やフェア後に地域に残るようなつながりを仕組みとしてデザインできるといい。 	
植物調達・管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域と連携した効率的かつ効果的な花卉調達の手法 ● 無駄にならない花卉等のリサイクル方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催時期において、どれくらいの種類や量の花や植物が集まるのか心配。 ・開催時期で市内産の花卉が提供できるかどうか、生産者等から確認がとれるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ランキユラスは7色が全部あり、球根を最後、3月のフェアが終わったら掘り上げて、それを持ち帰れば毎年花は咲くし、切り花としても活用できるので、広く長く使えるものを上手く選択して、長く楽しめるような仕組みができるとよい。 ・調達先として、市内農家から調達、市民協働による花苗育成、市場からの調達の3つの調達が必要かと思うが、種類、数量をできるだけ早くに出してほしい。
広報宣伝・行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 市制100周年記念事業との連携、市内と市外でターゲットや媒体を精査した、効果的な広報・PR・行事 ・参加する方の感情をどう持っていきとおもしろいイベントとなるのかしっかり考えていく必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアなど、様々な人々に呼びかけ、集めていくには、SNS等を活用して早期発信したほうがよい。 ・インパクトのあるイベントや、かわさきのコンテンツを盛り込んだプログラムなど、仕組みで目玉づくりが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PRの動機付けについて、まさに話題作り、話題性、イメージ、それから、趣味や喜びとか社会貢献とか、そういったものがキーワードとして関わってくる。これに加えて、どこで広報をしていくのかということがすごく重要。 ・今の新しい世代の皆さんへはやはり各種SNSの展開を仕込んでいくか、その設計が非常に重要。広報の展開としては、様々取組のストーリーを広報してほしい。
飲食・物販 (営業参画)	<ul style="list-style-type: none"> ● 市制100周年記念事業との連携した飲食物販 ・かわさき育ちの収穫できる量が限られている。地元のものを使用するにも生産量の問題もできてるので、早い段階から調整が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさきそだちの具材を活用できるとよい。 Ex) のらぼう菜・かわさきの酒 ・既存コンテンツとのコラボできるとよい。 ・インパクトのある企画があるとよい。 Ex) カレーフェスタ、キッチンカーのスペシャルメニュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアの期間、川崎市内のホテルやレストランなどで川崎育ちなどを使ったメニューなどを検討するなど、街として盛り上げる、参加するっていう仕組みがあるとよい。
会場運営・交通誘導	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通輸送のあり方 ・アクセスについて、シャトルバス輸送やマイカー対策等を検討し、警察等ともよく調整したほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内の駐車場を利用する場合は、高齢者や障害者に限った運用を適切に広報することでマイカーの抑制につながると思う。 ・環境に配慮している電気自動車等に限った運用もマイカーの抑制に効果的だと思う。 ・区ごとに交通安全協会の交通指導員が10名～20名いるので、緑化フェアの交通誘導にも協力できる可能性があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアの時の少なくとも土日ぐらいは、富士見と等々力を結ぶバスぐらいはあったほうがよいのではないか。